

2021年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 国際学部 国際学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
国際学部特待生入試 英語ライティング	4
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	5
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	6
出題意図	10

「一般選抜 A日程・B日程・C日程」の問題は、
「2021 年度入試問題集 一般選抜 A日程・
B日程・C日程（全学部・学科共通）」に掲載
しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章を読んで、グローバル社会に生じている変化についてまとめなさい。また、それに対するあなたの意見を述べなさい。（600～800字）

グローバル社会に修正迫る可能性も

ヒト、モノ、カネが国境を越えて移動するグローバル社会。新型コロナウイルスが引き起こした「鎖国」を経て、新しい姿に生まれ変わるのだろうか。

大阪大教授の秋田茂（イギリス帝国史）は「いまの時代は庶民でも若者でも気軽に国境を越えられるようになった。歴史上例のないことで、この流れは変わらないだろう」とみている。

19世紀後半は蒸気船や鉄道が発達し、移民を中心に大量の人が自由に国境を越えて移動した。第2次世界大戦後、植民地からの独立を果たした国々では、自国の発展を優先し、国境の管理が強まった。再び移動が活発になったのは、石油危機を経て、経済のグローバル化が本格化した1980年代から。冷戦終結や航空網の拡大も後押しした。

いまや企業活動はボーダーレスが大前提。例えば多くのスマホは、ソフトが米国、組み立ては中国頼み。すべて自前だと高価になり、買えない人が増えて経済が縮小しかねない。「経済の相互依存によって大量消費社会は支えられている。もはや若い世代にとって、外とつながらない世界を想定するのは無理だろう」

ただ地域統合の理想とされたEUでさえ、新型コロナの脅威の前に加盟国は自らを守るのに精いっぱい、逆に国境を閉じる動きが進んだ。「地域統合の持つ脆弱性が表面化し、ナショナリズムが息を吹き返した。国民国家を見直す動きが強まるのではないか」と、グローバル社会が修正を迫られる可能性も指摘する。

グローバル化が反転した場合、外国の人々との距離が広がり、共生への意欲が下がることが心配だという。自国のことだけ考えて外国への関心が薄ければ、他国の異なる多様な文化に共感できないメンタリティーが定着しかねない。「オンラインだけだと限界がある。フェイス・トゥ・フェイスの交流が一番大切だ」

一方、「今回の世界的な感染拡大でグローバル化の弊害も見えてきた」と言うのが、大和総研主任研究員の神尾篤史。「国を開くのはいいことだ」という価値観の下でグローバル化が進み、2国間や多国間で関税の引き下げや非関税障壁の撤廃が進んできた。中国がグローバル化の主役になれたのもWTO（世界貿易機関）に加盟したからだ。

ところがグローバル化が全ての国民の利益にはならないことが、ブレグジットや米トランプ政権の移民政策などで表面化。トランプ大統領は中国をやり玉にあげ、自国中心主義に走っている。今回の危機で国境の壁を低くしすぎたと考え、グローバル化を見直す国が出てくる可能性もある。そうなれば多国間の協定に影響が及ぶかもしれない。「ヒト、モノ、カネの動きが活発になるべきだ」という考えは揺るがない。ただ『^{よろい}鎧を着る部分は鎧を着る』ということになるだろう

これまでは国家間がぎくしゃくしても、民間が関係を前進させてきた面があった。「ただ、今回は国・民間の両方で距離が生じる可能性がある。経済的にも平和的にも結びつきが弱まる懸念がある」とみている。

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

- 問1 次の文章で述べられている英語の国際化についての筆者の考えを、200字以内でまとめなさい。
問2 筆者の考えに対するあなたの意見を、450～600字で述べなさい。

英語は世界で最も広範囲に使われ、最も有効な国際共通語といえよう。一説によると、英語の話し手は20億人にもおよぶ。このうち、英語を「母語」とする人々は3億人、「公用語」とする人々は10億人、さらに「外国語」、あるいは「国際語」とする人々は7億人にもなる。世界の人口が60億人として、3人に1人が程度の差こそあれ、英語をいろいろなふうに使っている勘定になる。

すなわち、日本人の観点からいうと、英語は英米人とだけ話すことばではなく、フランス人ともイタリア人とも、中国人とも韓国人とも、アラブ人ともトルコ人とも、アフリカの人とも南米の人とも交流するのに有効なことばなのである。つまり、英語が国際言語になったということは、英語が多国間コミュニケーションの道具になったということなのである。

ただし、そうはいつでも、世界中の人々がどこでもまったく同じ英語を話しているわけではない。せっかちな人は英語が国際言語になったと聞くと、アメリカやイギリスの英語がそのまま世界中に広まった、だから自分もバスに乗り遅れてはならないと感じるかもしれない。しかし、現実はそうではない。

英語は実に多様な言語なのである。英語を母語とするアメリカ人、イギリス人、カナダ人、オーストラリア人がみなそれぞれ独特の英語を話しているように、英語を母語としないアジアの人、アフリカの人、ヨーロッパの人、南米の人もいろいろと特徴のある英語を使っている。

つまり、英語が国際化したということは、アメリカ人やイギリス人などのネイティブ・スピーカーの英語がそのままの形で世界中に広まったということではない。むしろ、多くのノンネイティブ・スピーカーがそれぞれの歴史的、社会的、文化的必然性に合わせて、いろいろな形で英語を使うようになっていく姿を指しているといえよう。

このようにして、インド人はインド人らしい「インド英語」、シンガポール人はシンガポール人らしい「シンガポール英語」、フィリピン人はフィリピン人らしい「フィリピン英語」を、それぞれ話すようになる。もちろん、中国人、タイ人、インドネシア人、ベトナム人、そして日本人の英語にも、それぞれ独特の構造的、機能的特徴が見られる。

このことは普及と変容の関係を考えれば、よくわかるだろう。物事が普及するためには、適応が求められる場合が多い。たとえば、マクドナルドがインドに支店を出したいとする。インドはヒンズー教徒が多いので、牛は神聖な動物であり、牛肉を食することはタブーとなっている。

しかし、ボンベイ（現ムンバイ）のマクドナルド店はインド人の人気スポットになっている。どうしてだろうか。そこはビーフの代わりに、マトンやチキンのハンバーガーを出しているからである。マクドナルドがビーフに固執すれば、インドには出店できなくなる。反対に、マトンやチキンでも立派なハンバーガーになる。

同じように、私たちが食べている中華料理やイタリア料理も日本化されたものである。イタリア人がスパゲッティのつくり方にイタリア式以外のものを認めないなどということになれば、それは日本でこんなにポピュラーにはならなかっただろう。日本料理も世界に広まると、土地の人々の習慣に合ったものになっていく。

ことばもこれと似ており、英語が世界に広まれば、世界に多様な英語が発生することになる。だから、英語の国際化は、必然的に英語の多様化を意味する。多様化は国際化の代償なのである。その意味で、英語の今日的問題は多様性ぬぎには考えられない。英語のさまざまな変種を考えなければならない理由はここにある。

むしろ、英語は多様であるからこそ、共通語になれるということもできる。従来、共通語には「画一、一様」というイメージが付きまとっていた。しかし、よく考えてみると、多様な言語でなければ、共通語の機能は果たせないのである。アメリカ英語の発音、語彙、文法、表現が世界共通語として強制されれば、英語は広範囲に普及することはないといえる。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

- 問1 筆者は読む行為を通じてどのような力を身につけていくと考えていますか。200字程度でまとめなさい。
問2 デジタル媒体と紙媒体では読み方と理解の仕方にどのような違いがあるか、筆者の考えを100字程度でまとめなさい。
問3 問2で挙げた筆者の考えに対するあなたの意見を400字程度で述べなさい。

ヒトが文字を読み、書くことは当然だと私たちは考えがちです。違います。読み書きはヒトの天性ではありません。発明です。

人類は20万年ほど前にアフリカ大陸に出現したとされています。言語は数万年前には誕生し、文字は6000年余りに前に作られたと考えられます。人類史の中では相対的に最近のことです。最初は、群れをなす野生動物の頭数の筆記といった単純な内容でした。

見る・聞く・話す・嗅ぐといった行為は遺伝子でプログラムされています。それぞれの行為に対応する神経回路が脳に備わっている。乳児は周りを見て、においを嗅ぐ。幼児になれば、言葉を発し、簡単な意思表示もできます。

読み書きは遺伝子に組み込まれていません。では、どうやって身につけるのか。

大人が忍耐強く文字を教える必要があります。やがて幼児は文字が一つ一つ違う音に対応し、そのまとまりが意味を持つことに気づき、記憶する。この時、脳内で文字と音と意味を結びつけた、全く新しい複合的な神経回路が発明されている。脳の柔軟さが読み書きを可能にするのです。

単語の連なる文章を理解することは単純ではありません。脳に巨大な連結器のようなものができて、文字・音・意味を結びつける基本的な複合回路を次々と素早くつなぎ合わせることが必須です。文章の意味をくみ取るために、脳は大車輪の働きをしている。

私流に言うと、「読む脳」の誕生です。「読む脳」は経験を重ねて成長します。子供は読むことで育つともいえます。

8歳から10歳の間に、知識が増え、考える力が少しずつ備わります。自分が知っていることに照らし合わせて、文章の意味を推理できるようになります。

10歳から12歳になると、文章を読み進めながら仮説を立て、仮説が正しいのか間違っているのか、次第に判断できるようになる。作者や登場人物の感情や考えに思い当たるようになる。これはとても大事なことです。世の中には自分とは違う考えの他者が存在していることを理解するわけですから。大人へ向けた第一歩です。

初等教育で重要なことは、子供を励まし、手助けをして、推理・推論・真偽判断を含む、総合的な読む力を育むことです。

「深い読み」が、その先にあります。読み続けながら批評眼を養い、時代も文化も違う作者とも想像力を働かせて「対話」し、作者の思いに共感したうえで自分の思想を築いてゆく――。読む行為の到達点だと私は考えます。

（中略）

デジタル媒体と紙媒体をめぐる比較調査があります。欧州で2000年から17年にかけて若者総計17万人を対象にした大実験です。その結果は、紙で読む方が話の内容・筋立て・場面などをよりよく記憶し、理解できた。幼年時からデジタル媒体に親しんできた世代でも結果は同じでした。彼らには「早く読む」ことを「よく理解する」と取り違える傾向があることも判明しました。

読む時、視線は紙面では文章上を進み、時に前に戻りますが、デジタル端末画面ではジグザグに飛びつつ、先に進む。紙面の場合は時間をかけて理解に努める心構えになるのに対し、画面の場合は読み飛ばしがちになる。

私見では、電子書籍にも同様の落とし穴がある。つい読み流し、吟味がおろそかになり、「深い読み」ができない。真の理解は、時に立ち止まり、後戻りして、あえて言えば作者が姿を現すのを待つことで得られる。忍耐が必要なのです。デジタル媒体は結末に向けて読みをせかしてしまうのです。

これはニュースの理解にも当てはまります。デジタル端末は扱うニュースがそれほど多様でなく、出来事を単純に伝える傾向がある。一方で、新聞は概して守備範囲が広く、優れた分析記事は読者に深い理解をもたらしてくれます。

加えて、デジタル媒体は文章が短くなる。読み飛ばす読み手は、書き飛ばす書き手になるものです。ツイッターは象徴的です。

（中略）

脳の性癖にも絡む、デジタル時代の危うさがあります。

私は先ほど脳が柔軟なために読み書きが可能になったと言いました。実はこの柔軟さはマイナスにも作用する。媒体の負の面も反映してしまうのです。速読向きのデジタル媒体に染まると、ヒトは考えに時間を割かなくなり、短絡的になり得る。米国でデジタル世代は他者への共感が薄くなってきているという知見もあります。

ヒトは既にデジタル時代のまっただ中です。デジタル化は更に進みます。後戻りはできません。

私の夢はデジタル媒体と紙媒体双方で「深い読み」のできる「二重に読む脳」を育むこと。子供の時になるべく多く紙の本に親しみ、デジタル媒体は意識的に注意深く読む習慣をつける。脳の柔軟さに改めて期待しつつ、大人と子供が知恵を出し合い、時代に即した読みを工夫することです。

●国際学部特待生入試

【英語ライティング】（試験時間：30分）

There are many schools and universities around the world that have started using technology, such as computers, tablets, smartphones, etc, in their courses. Some people believe that technology should be used even more in education. What would be the advantages and disadvantages of this in your opinion? You should write 200-250 words.

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

- 問1 筆者が考える、ヒトだけが進化させることのできた能力とは何ですか。（30字以内）
問2 科学技術文明は私たちのどのような欲求に基づいて発達してきたのでしょうか。また、その発明において想定していなかった問題とは何ですか。具体例を挙げて説明しなさい。（200字程度）
問3 問2で挙げた、想定していなかった問題の解決方法について、あなたの意見を述べなさい。（400字程度）

ヒトは、言語や数学などの記号を駆使し、抽象的思考でものごとの因果関係を解明し、それらの内容を互いに共有し、みんなで協力して知識や技術を改良していくことができる。この「協力」、「共感」というものが、いかにヒト固有であるのか、他のどんな動物にも見られないほど高度なレベルの社会性こそが、私たちヒトの最大の特徴であり、強みであるということを、まずは強調したい。

近年の個人主義、貨幣経済の産業社会と都市生活では、あたかも一人一人が自分の力で生きているような錯覚に陥る。そして、一人一人が自己責任で生きていかねばならないと考えるように仕向けられている。が、生物としての私たちの成功の秘訣は、人々が互いに心を共有し、共感し、同じ目標に向かって協力できることなのだとすることを、より多くの人々に再認識して欲しいのである。もしかして、これはあまりに当たり前のことなので、かえって認識しにくいのかもしれない。

さて、そうして築いてきたのが、この科学技術文明である。個々の知識や技術の改良はそれぞれ素晴らしいことなのだが、では、科学技術文明は、総体として、本当に私たちをどこへ連れて行くのだろうか？ それは誰にもわからない。

科学は知識の探究であり、「知りたい」という私たちの欲求に基づいている。技術は道具の改良であり、「もっと速く動き、もっと楽に暮らし、もっと楽しくなりたい」という私たちの欲求に基づいている。欲求は、理性的な認知とはかなり異なる土台でヒトを動かしている。パスカルは、「心は理性のあずかり知らぬ独自の理由を持っている」というようなことを言っているが、これは慧眼だ。こうした個々の欲求の追求がもたらすものの全体がどうなるかなど、誰も考えていないし、考えることもできない。考えても、どうにもならない。

自動車や飛行機の発明が、これほどの環境問題を引き起こすなど、誰も考えていなかった。コンピュータの発明が、その先にどんな社会の変化を引き起こすかなど、誰も考えていなかった。ほとんどの人がスマホを持つような社会で、子どもがどのように育つのか、誰も考えていなかった。プラスチックの発明が、これほどのプラスチック消費文明を作り、地球のすみずみまでプラスチックゴミが蔓延することになるなど、誰も考えていなかった。

もちろん、ある問題について途中で気づいたあとには、何らかの対策がとられる。しかし、それらはすべて後知恵であり、うまくいくときもあるが、うまくいかないことも多い。うまくいかないからと言って、もうあと戻りはできない。こうしてローラーコースターのように進んでいるのが、今の科学技術文明である。さて、未来はどんなものなのだろうか？ 私にはわからないし、誰も予測はできないだろう。

とは言え、論理的に思考し、他者に共感し、みんなで協力しあう能力を持っているのが私たちヒトなのだ。問題の大きさに気づけば、意識して目標を立て、それに向かって実行することを始め、いずれ、何らかのよい方向に収束することができるかもしれない。問題は、私たちのそのような合意が、科学技術の変化の速度に追いつけるかどうかなのではないかと私は思っている。そういうことを考えられる次世代の人々を育てていくのが、私たちの世代の義務なのだろう。果たして、それは間に合うのだろうか？

●一般選抜 D 日程入試

【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

2000年代以降、ヨーロッパを中心に移民統合政策の国際比較が盛んになっていますが、その^①センクテキで代表的な取り組みが移民統合政策指数（Migrant Integration Policy Index）です。この指数がマイグレーション・ポリシー・グループ（Migration Policy Group）によって初めて用いられ、国際比較の調査結果が公表されたのが2004年で、EUの15カ国（西欧諸国）が参加しました。2回目となる2007年にはEUの25カ国とノルウェー、スイスさらにカナダが参加しました。そして、2011年に3回目の調査結果が公表された時には、ブルガリアとルーマニアさらにアメリカも加わり、欧州29カ国（うちEU27カ国）と北米2カ国が参加しました。

そして、今年（2015）6月30日に、4回目の調査結果（MIPEX 2015）が公表されました。第3回目の参加国にアイスランド、トルコ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国そして日本が加わり、38か国となりました（原文ママ）。具体的には、8つの政策分野（労働市場、家族呼び寄せ、教育、保健、政治参加、長期滞在、国籍取得、反差別）について、167の政策指標を設け、数値化しています。その結果、総合的な評価では、スウェーデンが1位（78点）となり、ポルトガルが2位（75点）、ニュージーランドが3位（70点）となりました。4位以下10位まで、フィンランド、ノルウェー、カナダ、ベルギー、オーストラリア、アメリカ、ドイツとなっています。ちなみに、日本はスロベニア、ギリシャと並んで27位（44点）です（最下位はトルコで25点）。

今回の調査結果で、前回と比較して注目されたのは、オランダとイギリスが大きく点数を落としたことでした。オランダは、68点から60点への減少で、今回参加国で最も大きく点数を落としました（順位は5位から11位へ降下）。その理由としては、移民に課された統合試験に合格するための公的支援が^②サクゲンされ、試験も有料となったこと、移民の就労や家族呼び寄せの制限が強化されたことなどがあります。イギリスの点数も63点から57点へと減少しました（順位は12位から15位へ降下）。家族呼び寄せそして長期滞在や国籍取得の制限強化などが^③エイキョウしたようです。

一方、前回から点数を伸ばした国もありますが、10点増加したデンマーク（49点から59点、14位から13位へ上昇）が突出しています。また、欧州最大の移民受け入れ国となったドイツも3点増加し、順位も12位から10位へ上昇していることも注目に値します。

今回の日本の調査結果を政策分野別に見てみると、比較的評価の高いのが労働市場（65点、15位）、家族呼び寄せ（61点、20位）、保健（51点、16位）の3分野で、残る5分野は、教育（21点、29位）、政治参加（31点、23位）、長期滞在（59点、20位）、国籍取得（37点、23位）、反差別（22点、37位）となっています。近年、^Aヘイトスピーチ問題が日本でも大きく取り上げられていますが、反差別政策の評価が特に低いことが注目に値します。

なお、MIPEXの調査に対して、法律や制度がよくても実際に機能しているかどうかは別問題であるという指摘がこれまでありましたが、今回の調査では、政策を評価する指標だけでなく、政策の成果（アウトカム）の指標を用い、政策の受益者に関するデータも集めて、各国の政策をより総合的に評価することに努めています。

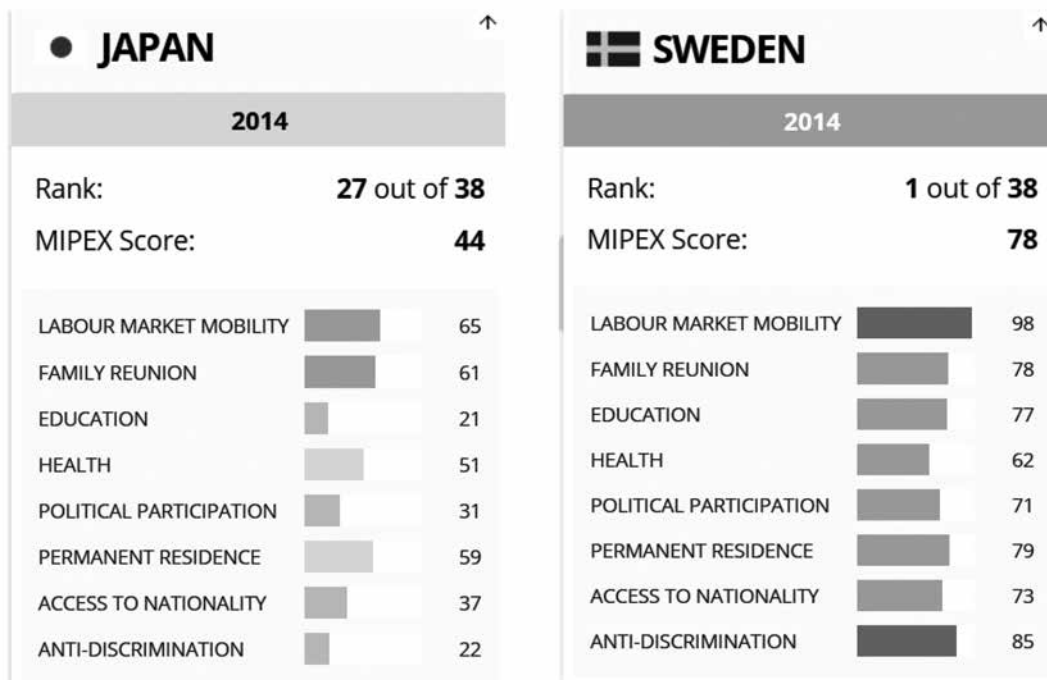
MIPEX 2015 がブリュッセルで発表された2日後に、OECDとEUによって、移民統合に関する指標を使った調査結果がバリエーションで発表されました。前者が移民統合政策の評価を目的にしているのに対して、後者は移民統合がどれだけ進んでいるかを測る調査です。具体的には、労働市場、教育、社会包摂（所得、住居、保健）、市民参加（civic engagement）、共生社会（social cohesion）の分野で27の指標が用いられています。実は、OECDは、2012年12月に、移民統合の指標を使った最初の調査結果を公表しました。取り上げた分野は、所得、住居、保健、教育、労働市場、職種、市民参加、差別です。また、EUも、2013年3月に、移民統合の指標を使った最初の調査結果を公表しました。取り上げた分野は、雇用、教育、社会包摂、アクティブ・シティズンシップです。今回は、両者が協力して、より^④ホウカツテキな調査を行った画期的な報告書といえます。

今回の調査では、大半の分野で、移民のほうが本国生まれの人よりも、より低い結果が出る傾向があり、特にEUにおいてその傾向が^⑤ケンチョであることが明らかになりました。調査結果で特に注目されたのは、移民の子どもが、特にEUにおいて、教育の躓きによって、就職も難しいという困難を抱えていることです。また、移住した親よりも、その国に生まれた子のほうが労働市場で成功しているとしても、差別をより感じるという結果も出ています。なお、日本は雇用と教育に関する一部のデータを提供しているだけなので、残念ながら大半の分析の対象とはなっていません。

移民の統合は、人のグローバルな移動が広がる中、先進国共通の課題となり、政府関係者、研究者、市民社会等が参加する国際的な調査研究のコミュニティが形成されつつあります。日本政府も、早急に移民統合（多文化共生）に関する態勢整備に取り組み、こうしたコミュニティに参画することが求められます。

出典：山脇 啓造「MIPEX 2015 と移民統合指標」（JIAM 全国市町村国際文化研修所 メールマガジン 2015.08.26）
https://www.jiam.jp/melmaga/kyosei_newera/newcontents05.html

◆資料1：移民の受け入れ状況 MIPEX の国別スコア（日本・スウェーデン）



◆資料2：移民の受け入れ状況

国際連合経済社会局（UN DESA）と国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が公開しているデータを使って、ヨーロッパ及び北米で移民の多い10カ国と日本について、国内にいる移民数と難民数、そして2019年にUNHCR経由で第三国定住の審査を行った難民数を表にまとめました。第三国定住（再定住）とは、出身国外で難民認定を受けてキャンプ等で暮らしている難民を、先進国を中心とする第三国に定住させる取り組みです。

	国	2019年移民数	2018年難民数	2019年再定住*受付数
1	アメリカ	5,066万人	31万3千人	24,808人
2	ドイツ	1,313万人	106万4千人	9,640人
3	イギリス	955万人	12万7千人	3,507人
4	フランス	833万人	36万8千人	3,307人
5	カナダ	796万人	11万4千人	14,624人
6	イタリア	627万人	18万9千人	413人
7	スペイン	610万人	2万人	1,193人
8	スイス	257万人	10万4千人	1,102人
9	オランダ	228万人	10万2千人	1,433人
10	スウェーデン	200万人	24万8千人	5,408人
	日本	250万人	1900人	40人

※出典：国際協力 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン

問1 下線部①～⑤のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- ① センクテキ
- ② サクゲン
- ③ エイキョウ
- ④ ホウカツテキ
- ⑤ ケンチョ

問2 次の①～⑤の選択肢から、下線部 A「ヘイトスピーチ」に相当するものには○の記号を、相当しないものには×の記号を書きなさい。

- ① 人種差別を行っていると思われる特定の国家を非難すること。
- ② 特定の人種であることを理由に、国外へ退去すべきであると主張すること。
- ③ SNS を通じて、自分の好き嫌いの感情を表すこと。
- ④ 上下関係や優位性を利用し、本人の意に反することを強要すること。
- ⑤ 特定の性別であることをもって、議会の構成員としてふさわしくないと主張すること。

問3 「MIPEX」に関してこれまで懸念されてきた問題とその解決法について、120 字以内で述べなさい。

問4 記事中の「MIPEX2015」のデータから読み取れる、日本の移民政策に対するあなたの評価を 250 字以内で述べなさい。

問5 文中のデータを踏まえて、日本の移民政策はどうあるべきか、根拠を明確にしながら 200 字から 300 字の間で自分の考えを述べなさい。

●出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

新型コロナウイルスがグローバル社会にもたらす変化について問題文の内容をまとめさせるとともに、グローバル化が今後どのように変化していくのかという問題への解答をとおして、志願者の問題意識を問い、グローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

コロナウイルスが引き起こすパンデミックが、グローバル社会への見直しを迫る可能性が指摘されている。それらの問題として、経済的には、これまで積極的に推し進められてきたグローバルなサプライチェーンの見直し（生産拠点の各国内への回帰）、政治的にはナショナリズムとグローバリズムのせめぎ合い（国民国家の復権）などがある。今後、国際社会はどうあるべきなのか。このことにつき、この問題文をとおして志願者の考えを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決能力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、筆者の述べる「英語の国際化」をどのようにとらえているのか、それに対してどのように考えるのかを志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

問題文に記された「英語の国際化」とは、単にイギリス英語やアメリカ英語がそのまま普及したのではなく、各地の状況に合わせて多様化したからこそ英語が国際共通語になれた、ということを理解しているかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく課題発見・課題解決能力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、筆者は読む行為をどのように捉えているのか、また、デジタル媒体と紙媒体では読み方にどのような違いがあり、それに対して志願者はどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解

次の筆者の考えについて理解しているかを問う。

- ① 読み書きはヒトの天性ではなく教えられることで身につく、総合的な読む力の先にある「深い読み」が読む行為の到達点であること
- ② 紙媒体では時間をかけて理解に努める心構えになるのに対してデジタル媒体では読み飛ばしがちになり「深い読み」ができないこと

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

国際学部特待生入試【出題意図】

ライティングのテーマとしては、高校生が比較的容易に考えを述べられる「ICT利用の教育」とした。英語の語彙、語法、文法に関わるスキルや、表現力、パラグラフ構成力など、表現力全般についての力を測る。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、筆者の述べる科学技術文明の発達をもたらす問題をどのように捉えているのか、それに対してどのように考えるのかを志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解

課題文中に示された科学技術文明の発達をもたらす問題に対して、ヒトだけが持っている能力を用いてどのように対応すべきかについての理解を問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

一般選抜 D 日程入試【出題意図】

問 1 ① 先駆的 ② 削減 ③ 影響 ④ 包括的 ⑤ 顕著

問 2 ① × ② ○ ③ × ④ × ⑤ ×

問 3

法律や制度がよくても実際に機能しているかどうかは別問題であるという指摘があったが、今回の調査では、政策を評価する指標だけでなく、政策の成果の指標を用い、政策の受益者に関するデータも集めて、各国の政策をより総合的に評価することに努めている。

問 4

MIPEX2015 の結果によれば、日本は移民統合について十分な取り組みをしているとは言えない。参加 38 カ国中 27 位は下から 12 位ということであり、最上位のスウェーデンと比較すると、「反差別政策」が 85 ポイントに対して 22 ポイントと極端に評価が低い。また「教育」という点でも、77 ポイントに対して 21 ポイントと辛く評価されている。「政治参加」も 71 ポイントに対して 31 ポイントに過ぎない。

問 5

私は、日本の移民政策は、世界の中で立ち遅れていると考える。国連のデータによれば、日本は欧米諸国と同様、多くの移民を受け入れているが、難民や再定住者の受け入れがほとんどない。このことは世界に評価されないのではないだろうか。人口減少を迎える日本にとって移民受け入れ問題は、私たちの生活とつながる身近な問題である。MIPEX2015 によれば、日本は「政治参加」「反差別政策」が低いと判断されているが、日本人がもっと政治に目を向け、差別に関心を持たせるように政府と国民がともに考えてゆくことが、この問題の解決につながると考える。